

# 第1学年 音楽科学習指導案

山城小の実践

1, 題材名 「おいしいうたをつくろう」

2, 題材の目標

- (1) 拍の流れにのって、言葉に合わせたリズムフレーズの掛け合いを楽しむ。
- (2) リズムフレーズを鍵盤ハーモニカで即興的に表現し、簡単なふしをつくる。

3, 学習指導要領との関連

(1) 指導事項【A 表現：(3) 音楽づくり】

○	ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
	イ 音を音階にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みをいかし、思いを持って簡単な音楽をつくること

[共通事項]		本題材における学習内容
ア	(ア) リズム	言葉に合わせたリズムパターンを組み合わせて、リズムフレーズをつくり、手で打ったり言葉で唱えたり鍵盤ハーモニカで弾いたりする。
	拍の流れ	拍節にのって、リズムフレーズを打ったり、伴奏にあわせて、リズムフレーズを鍵盤ハーモニカで表現する。
	(イ) 問いと答え	言葉に合わせたリズムパターンやリズムフレーズの掛け合いを楽しみながら、全体のまとまりを感じる。

4, 題材の評価規準

ア 音楽の関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
いろいろなリズムパターンを聴き取り、意欲的に表現したり、リズムパターンやリズムフレーズを、掛け合って遊ぶ活動を楽しんだりしている。 【関 - ①②】	言葉に合わせたリズムパターンやリズムフレーズから生まれるリズムの面白さを感じ取りながら言葉で唱えたり、音を選んで試しながらどのように表現するか工夫している。 【創 - ①②】	言葉に合わせたリズムパターンを聴き取ったり、自分で考えたリズムフレーズを拍節にのって2音で表現している。 【技 - ①②】

5, 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第1学年の内容「A表現(3)ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること」を達成するための題材である。本題材では、言葉に合わせたリズムフレーズをつくり、拍節にのって掛け合いを楽しむ活動、また伴奏に合わせて即興的に音を選び、グループでまとまりある一つの楽曲をつくる活動にとりくむ。

音楽の授業においては、どうしたら、子どもたちの心がうきうきするような活動になるかを考えながら、「楽しく」「友と関わりながら」「音楽ってすごい!」をキーワードに取り組んできた。楽曲から感じ取ったことを、体全体で表現する楽しさや、友だちとともに音楽を合わせる喜びを味わわせたいという思いで学習を展開している。また、ちょっとした工夫をすることで、心に響く音楽に変わることを体感するという経験をたくさんさせたいという願いを持っている。

本題材では、低学年で身に着けたい四分音符と八分音符を、言葉の中にあるリズムに着目し、言葉にのせながらリズムを打つことで、より身近に感じさせ、活動しやすくする。かつ、そのリズムをレストランごっこというリズムの掛け合い遊びをとおして表現し、拍節にのる心地よさを感じさせることで、拍節感を自然に身に付けさせたい。

また、1年生にとってはリズムだけで表現する活動も展開できるが、さらに使い始めて興

味を持っている鍵盤ハーモニカを使って、音につなげる経験もさせたい。

4分の2拍子のたった2小節のリズムフレーズではあるが、クラス全体や小グループで音を試しながら掛け合ったり、つなげたり、重ねたりと遊びの中で楽しませながら、形にしていく。また、伴奏という魔法にのせることによってまとまりある1曲となった達成感を感じ、これからの音楽づくりのきっかけとなるような活動にしたいと考えている。

更には、これらの経験を経て培った能力をいかし、指定された中からではなく、自由に好きな言葉をつなげてリズムフレーズをつくったり、それを2音で表現したりするところまで広げたい。このような活動が成功した時こそ、自分のものができた充実感を味わわせることができるのではないかと思う。

## (2) 本題材についての子どもの実態と手立て

子どもは、これまで体を動かしながらいろいろな音楽活動を楽しんできた。呼吸をそろえる活動、音楽を聴いてすぐに反応する活動、拍節にのる活動、音符の聴き分けをする活動などである。体を動かすことによって、実際にテンポやリズムの違いを頭で理解するのではなく、空間の広がりやエネルギーの違いに気付きながら体感できるようにしてきた。また一人ではなく友だちと一緒に活動することにより、調和した感覚も味わえるようになってきた。

リズムに関しては、リズム模倣や言葉に合わせたリズム打ち、四分音符と八分音符の違いを体で感じ取る活動の経験はある。リズムを表現するのに切り離せない拍節にのる活動としては、拍を流しながらなまえを呼び、それに答える活動や、みんなで輪になって、曲に合わせて順に手拍子を回していく活動、曲に合わせて歩く活動などを行ってきた。

このように、教科書に記載されている内容に加え、少しずつリトミック的な要素を取り入れつつ、体を動かしながら拍節やリズムを体得する活動をしてきた。しかし、楽しいあまり、ふざけすぎてしまい、音や音楽に耳を傾けることができず、その結果、拍節にのって歩けなかったり、リズム打ちできない子どももいる。何が目的での活動なのかが分からず終わってしまう場合も少なくない。また、数名、大勢での活動や同じ歩調での活動が苦手な子どももいて、リトミック的活動には参加できない状況もある。その上、今まで、全体での活動は行ってきたが、小人数によるグループでの活動経験はない。

そこで、指導にあたっては、再度、みんなで楽しんで活動するための約束⑤を確認する。一緒に活動するのが苦手な子どもには、教員が積極的に関わったり言葉がけを行い、少しでも一緒にできる活動を増やすよう心がけたい。また、今まで学んできたものを使って音楽づくりを行うという目的や、一つひとつの活動に設定された目標をはっきり認識させたい。そして少人数の友だちと一緒に活動することで苦手な子どもも萎縮することのないようサポートも行いながら、クラス全体、小グループそれぞれ調和しながら楽しく活動できるようにすすめていきたい。

自分のリズムフレーズを打てない子ども、拍節にのれない子ども、リズムフレーズを鍵盤ハーモニカで表現できない子どもに関しては、速度を落として練習、リズムフレーズをトウトウトと口で言えるようにする練習などを取り入れながら、自信をつけさせたい。

## (3) 教材観

教材として食べ物の言葉と結びつけた四分音符と八分音符を使った2拍分のリズムパターン、食べる時のオノマトペ2拍分のリズムパターンをそれぞれ数種類ずつ用意する。

(①④) 子どもは食べ物から一つ、オノマトペから一つ選択し、それをつなげて4分の2拍子2小節のリズムフレーズを表現する。言葉に合ったリズムパターンを扱うため、苦手な子どもも練習を重ねるごとに正確にリズム打ちできると考える。

そして、2種類のレストランごっこを介して、拍節にのってリズムを打つ経験をさせる。Aは今まで行ってきた言葉リズムと同じタイプ(②)で、Bはそれをもう少しふくらませた内容(③)である。

また、レストランごっこBは子どもの演奏部分をつなげたり、伴奏を入れたりして、1つのまとまりある曲「おいしいうた」となるように仕組んでいく。

今回は、この言葉の掛け合いによるリズム遊びをさらに発展させ、そのリズムフレーズを鍵盤ハーモニカで音につなげて音楽づくりをする経験をさせたい。拍節にのることを大切にするために、「おいしいうた」パターンⅠ(伴奏部分はパーカッションで拍を刻んでいるだけのもの)にあわせて、ドかミを選んで即興的に演奏する。最終的には、「おいしいうた」パターンⅡ(ドでもミでも合う伴奏つきのもの)にのせて表現する。グループのお友だちと音をつなげていく楽しさや、まとまりのある曲になる達成感が感じられるはずである。

①

食べ物とそのオノマトペ  
(それぞれ2拍分)

メニュー	オノマトペ
おしゃべり	ばくばく
トースト	がつつり
スープ	とろり
ジュース	べろり
スープ	フツフ
パン	あん

②

レストランごっこA

コック：今日のメニューは何にする？  
お客：メニュー×2  
おいしそう♪

③

レストランごっこB

コック：お味はいかが？  
お客さん？  
お客：2拍×2小節  
(メニュー+オノマトペ)  
おいしいよ♪

⑤

なないろ まじっく  
~みんなのところに にじ をかけよう！  
ここに にじ をかけるための おやくそく

1. はしらない
2. ふざけない
3. おさない
4. おとに みみ をすませて よくきく
5. かっとうに ひつよう なときが いは おしゃべりしない
6. みんなで ところ をひとつにするために、せんいんが さんがする
7. やさしいところで かっとうする

④

6. 指導と評価の計画 (全4時間扱い)

次	◎ねらい○学習内容・学習活動	評価の観点			●留意事項◆評価規準	評価方法
		関	創	技		
第1時	◎メニューやオノマトペのリズムパターンを聴き取ったり、言葉を唱えながら手を打ったりしながらリズムパターンの掛け合いを楽しむ。 常時活動 (リトミック)					
	○レストランごっこをしながら音楽づくりをすることを知る。 ○レストランごっこAをする。 ・メニューのリズムパターンを確認する。 ・ピアノで表したリズムがどのメニューのリズムか考える。 わかったらそのメニュー名を唱えながら、手をたたく。 ○レストランごっこBをする。 ・オノマトペのリズムパターンも確認し、言葉を唱えながら手で表す。 ・メニューのリズムパターンと一致させる。 ・グループで言葉 (メニュー+オノマトペ) を言いながら、自分たちの組み合わせ (リズムフレーズ) を決める。 ○自己評価	①			◆いろいろなリズムパターンを聴き取り、意欲的に表現している。	行動の観察 発言の内容
			①		◆言葉に合わせたリズムパターンやリズムフレーズを拍節ののって言葉で唱えている。	行動の観察
第2時	◎拍節ののって、グループでリズムリレーを楽しみ、鍵盤ハーモニカで表現する。 常時活動 (リトミック)					


時	<p>○前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの聴き取り</li> <li>・レストランごっこB（全体で）</li> </ul> <p>○小グループ（3人）に分かれて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客①②③の順番を決め、拍節にのりながら、リズム打ちする。</li> </ul> <p>○レストランごっこを一つの曲にとらえる。→「おいしいうた」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像（デジタルテレビ）を見て、レストランごっこBをどのようにまとめていくかを映像を見ながら確認する。</li> <li>・「おいしいうた」パターンIの拍に合わせてグループのリズムフレーズをたたく。</li> <li>・「おいしいうた」にのせてレストランごっこBをする。（全体→グループ）</li> </ul> <p>○鍵盤ハーモニカで自分たちのリズムフレーズを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミの音のみ。</li> <li>・タンギング練習</li> </ul> <p>○自己評価</p>			<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆言葉に合わせたリズムパターンを聴き取っている。</li> <li>●拍を流し続け、その拍節によってグループごとにごっこ遊びを行う。</li> <li>●デジタルテレビで「おいしいうた」パターンI再生。（自分がどこで演奏すればよいかが目を確認できる。）</li> <li>●演奏する人、聴く人がいる状態を心がける。</li> <li>◆リズムフレーズを拍節の流れにのせて、掛け合いをして遊んだりする活動を楽しんでいる。</li> <li>●リズム打ちだけでは満足させず、「音楽をつくる」ことが目的ならば、音も付けたい気持ちにさせる。</li> </ul>	<p>活動の聴取 行動の観察</p> <p>活動の聴取</p>
第3時 本時	<p>◎自分たちのリズムフレーズを2音で表現し、拍節や伴奏によって表現する楽しさを感じる。</p> <p>常時活動（リトミック）</p> <p>○前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの聴き取り。</li> <li>・リズムフレーズを、確認。</li> </ul> <p>○単音を2音に増やしてより音楽的になったことを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドとミで自由に表現し、さらにおいしそうな「おいしいうた」にする。</li> </ul> <p>○「おいしいうた」パターンII（伴奏付き）を聴き、あわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体、グループ、選抜で。</li> <li>・伴奏に合わせた心地よさを感じる。</li> </ul>		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吹くたびに音は変わって良い。</li> <li>●演奏した音を視覚的に見せる。</li> <li>●「おいしいうた」パターンI再生。</li> <li>◆音を選んで試しながらどのように表現するか工夫している。</li> <li>●「おいしいうた」パターンII再生。</li> <li>●自分の順番が来たら、自由に音選びをしながら吹く。</li> <li>●演奏する人、聴く人がいる状態を心がける。</li> </ul>	<p>演奏の聴取 子どもとの対話</p>


	○自己評価				
第4時	◎好きな言葉から自分だけのリズムフレーズをつくり、それを2音で表現して、自由に楽しむ。				
	常時活動(リトミック)			②	演奏の聴取
	○ 前時の復習をする 「おいしいうた」を演奏する。			● 「おいしいうた」パターンⅡ再生	
	○ 自分で考えた言葉を2つ組み合わせてリズムフレーズをつくり、2音(ドとミ)で自由に表現する。			◆ 自分で考えたリズムフレーズを拍節ののって2音で表現している。	
	○ 発表して、友だちの演奏を聴き合う。			● 「おいしいうた」パターンⅡ再生	
	○自己評価				

7. 本時の展開 (第3時)

- (1) 日時 平成26年9月4日 (木)
- (2) 場所 山城小学校1年2組
- (3) 本時のねらい

自分のリズムフレーズを2音で表現し、拍節や伴奏にのって表現する楽しさを感じる。

時間	○学習内容	・学習活動	●教員の働きかけ・準備など◆評価
	○常時活動 (リトミック)		
	○前時の復習をする。	・リズムの聴き取り。 ・リズムフレーズをリズムと鍵盤ハーモニカそれぞれでグループリレー。 ・鍵盤ハーモニカ(ミのみ)で「おいしいうた」を演奏する。(全体で。①～③の順番に。)	● デジタルテレビで「おいしいうた」パターンⅠ再生。 
	○本時の学習を知る。 <b>なないろマジックをかけて、 おいしそうなうたにへんしんさせよう!</b>		
	○単音を2音に増やしてより音楽的になったことを感じる。 <b>なないろマジック① 単音を2音に増やす</b>	・どのようにしたらもっと素敵な曲になるか、考える。 ・ドに1の指、ミに3の指を置き、リズムフレーズをトゥトゥトゥでタンギングしながら音を自由に楽しむ。 ・「おいしいうた」パターンⅠにあわせて、演奏する。(グループごとに一人ずつ。)	● 教員が見本を見せる。(ミだけ、ドだけ、混ぜたもの) ● 途中、子どもが表現している旋律を何名かに発表させ、いろいろなパターンがあって良いことを知らせる。 ● 演奏した音を視覚的に見せる。 ◆ 音を選んで試しながらどのように表現するか工夫している。(音楽表現の創意工夫②)
	○1音から2音が増えてどうだったか、発表する。		
	○「おいしいうた」パターンⅡ(伴奏付き)を聴き、あわせる。	・ドでもミでも合う伴奏(パターンⅡ)を聴き、あわせてみたい、さらにおいしそうなうたに	● デジタルテレビで「おいしいうた」パターンⅡ再生。

<p>○自己評価</p>	<p>よばいろマツック② ドでもミでもあう伴奏にあわせる。</p>	<p>変身させたい、という意欲を持つ。 ・全体、グループ、抜粋等いろいろなバージョンで表現する。 ・伴奏に合わせた心地よさを感じる。</p> <p>・自分の気持ちに正直に「ニコニコ」「まあまあ」「いまいち」マークのどれかに、名前のマグネットを置く。</p>	<p>●吹くたびに音は変わって良い。 ●演奏する人、聴く人がいる状態を心がける。</p>  <p>●「いまいち」マークの子どもには声をかける。</p>
--------------	---------------------------------------	--	--

(4)学習評価のすすめ方

- ◆音を選んで試しながら、どのように表現するか工夫している。(音楽表現の創意工夫②)
- 「おおむね満足できる」状況(B評価)と判断できる子ども
  - ・自分のリズムフレーズを2音から音を選んで試しながら表現している。
- 「十分に満足できる」状況(A評価)と判断できる子ども(B評価にプラスして)
  - ・いろいろ試しながら、より美しいふしになるように工夫している。
- 「特別な支援が必要」な状況(C評価)と考えられる子どもへの対応
  - ・ミだけのふしを1音だけドに変えてみたり、同じグループの子のまねをしたりしながら、自分なりのふしにする。

8. 参考引用文献

小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省  
 評価基準の作成 評価方法等の工夫改善のための参考資料 国立教育政策研究所  
 ”体を楽器にした音楽表現”リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選 神原雅之 明治図書

こどものためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～step4.5 リトミック研究センター

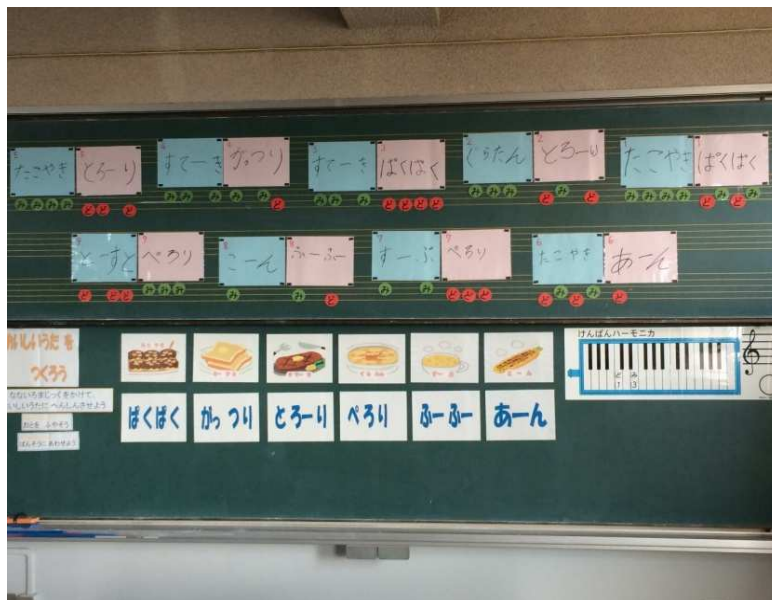
楽しみながら体を動かす1～5歳のかんたんリトミック 神原雅之監修 ナツメ社

神原

第3時・第4時 授業の実践

第3時

1. 子どもの作品例 〈実際の板書の様子〉



1班	たこやき	ばくばく	(ミミミミ ドミドミ)
2班	ぐらたん	とろーり	(ミミミー ドミード)
3班	すてーき	ばくばく	(ミミーミ ドドドド)
4班	すてーき	がつり	(ミミーミ ミミド)
5班	たこやき	とろーり	(ミミミミ ドドード)
6班	たこやき	あーん	(ドミドミ ドー)
7班	すーぶ	べりり	(ミーミ ドドド)
8班	ごーん	ふーふー	(ミー ミードー)
9班	とーすと	べりり	(ドードド ミミミ)

▲児童が即興で弾いた音を視覚的にわかるように黒板に表示

## 2. 成果と課題 ( ●成果 ●課題 )

- 日常的なリトミック活動が、拍感の定着につながっている。
- 言葉を活用したことにより、難しいリズムでも簡単に表現できた。
- レストランごっこを音楽づくりにつなげていくことにより、興味を持ちながら楽しんで活動できた。
- 手でうつのが難しいリズムも、鍵盤ハーモニカではリズム感よく拍節にのって表現できた。
- 単音だけの表現よりも 2 音での表現、しかもとんでいる音での表現は難しかったはずだが、いろいろ試しながら楽しそうに取り組めた。
- 友だちの吹いた演奏を聴いて、ドかミか判断し、一緒に歌えた。
- B 評価は全員クリアできていた。
- 本時までは指定された中からの選択だったが、ここまでの学習がしっかり身につけていれば、この先幅を持たせ、自分の好きな言葉からリズムをつくったり、音を増やしたりもできる。
- 掲示や ICT が見やすく、子どものやるべき内容が明確になった。
- 授業後の自己評価は大雑把ではあるが、教員が見取りきれない子どもの気持ちを把握するのに、有効だった。

### ●評価について

・A 評価のみとりが難しい。より美しくなるように試していたら、どのように見取っていくか。一つだけではく、いくつも試していたり、つくっていたりにすれば、という案も出たが、数进行评估するのはどうなのか。

### ●ICT について

- ・音量が大きければ、伴奏を聴かせたときの感動が大きくなったと思う。スピーカーをつけるなどの配慮が必要だった。
- ・テンポの設定が早かった。
- ・今回はすべて ICT を活用した伴奏だったが、教員が伴奏を弾けば、感じを変えたり、子どもに寄り添いながら演奏でき、達成感を与えられたのではないか。

## 指導助言 ( 押原中 : 薬袋貴教頭先生 )

- リトミックをとりいれ、習得したものをいかしたい、という思いから、即興的に表すという授業を 4 月から計画的にやっていた。
- 教材や手立て 簡単なことを手を変え品を変え、いろいろな方向からアプローチしている。そのおかげで定着している。
- 2 音にした瞬間難しい。音はとんでいるし、指はうまく動かない。でも拍節感があるから、遅れながらもものっていた。伴奏にのりたいという思いであった。
- このような内容は器楽にも関わる。音楽作りはどうしてもそちらの習得も必要になってくる。
- 評価規準はすべての子どもが B。今回のようにこれがしっかりしていれば、A と C は見やすくなる。A は簡単。もっと工夫しようとしている子どもを見ればよい
- 音の抑揚をやらなくても、言葉→リズム→旋律とつくっていく。中学校にむけてよい指針。
- もし拍節にのれない子どもがいても「はい」と声かけをしてやったり、もう一度やらせてやったりしていた。こうやって体感させていくことが大切。

## 先生方より(寄せられた感想)

〈リトミックに関連して〉

- ・リトミック活動から拍節やリズム感を感じさせる手立てなど、勉強になった。また、楽しく

友だちと関わりながら表現活動をしている姿がとても印象に残っている。

〈リズムを音へ 単音を2音へ増やした遊びについて〉

・ミから2音にしたときに、子どもたちが一生懸命何度も2音を吹き、練習していた。教員が、一人ひとり聴いてあげていたので、子どもは安心して次のバージョンを探ることができていた。「毎回、違っていい」という言葉を素直に受け止めて音楽作りをしていた。

〈拍や伴奏にのせたふしの表現について〉

・伴奏を聴いたときに、「これに2音の音作りを合わせたらどんな風になるのだろう」とものすごくわくわくした。期待以上のすてきな伴奏だった。伴奏でこんなにも雰囲気を作れるのだと思った。

・子どもたちがちゃんと速い拍にのっていた。相当集中していないと、特に2人目、3人目の子どもは入れないと思う。

〈ICTの活用について〉

・ICTの画面がすごいと思った。流れに沿って色が変わっていくのがとてもわかりやすいと思った。

・子どもたちが楽しい！できた！と感じることのできる授業だった。

## 第4時

### 1. 流れ

① 自分で言葉を考え、リズムで打つ。

A ラーメン ツルツル (ミ ドド ミドドド)	H たまご ペろり (ミミミ ドドド)	O たこやき たっぶり (ミミミミ ド ドド)	V やきそば つるつる (ミドミド ミドドド)
B たこやき たっぶり (ドドミミ ド ミミ)	I ケーキ パフェ (ミ ミ ドド )	P やきそば ズルズル (ミミミミ ドドドド)	W ぎょうざ トローリ (ミ ミ ドミ ミ)
C グラタン あーん (ミミミ ドー )	J ラーメン がっつり (ミ ミ ド ドド)	Q ケーキ トローリ (ミ ミ ドド ド)	X ラーメン がっつり (ミ ミ ド ドミ)
D プリン トロリ (ミドド ドミミ)	K ケーキ ペロリ (ミ ド ミドド)	R グラタン トローリ (ミミミ ドド ド)	Y ラーメン ツルツル (ド ド ミドドミ)
E たまご たっぶり (ミミミ ド ドド)	L ラーメン ズルズル (ミ ミ ドドドド)	S やきそば つるつる (ミミミミ ドドミミ)	Z コーン がっつり (ドー ミ ミド)
F グラタン ステーキ (ミミミ ミミド)	M コーン がっつり (ミー ド ミド)	T ヤキソバ ツルツル (ドドドド ミミミミ)	
G ラーメン ざるそば (ミ ミ ドドドド)	N ステーキ がっつり (ミミ ミ ド ドド)	U そうめん ツルツル (ミ ドド ドミドミ)	

・自分で考えたり選んだりできるのがうれしそうで、全員考えることができた。

・拍にはめて打つこともできた。

② それをミの音のみで吹く。

・全員吹けた。

③ ドをいれてふしにする。

・ドとミで分ける子どもが多かったが、ほとんどの子どもが、2つ目3つ目と考え、次から次へと披露した。

・とても楽しそうに、ドとミで遊びながら音を探り、つくっていた。

④ 「おいしいうた」パターンⅡ（伴奏付き）に合わせる。

・「いただきます〜す」と「まっいどあり〜」を鍵盤ハーモニカで吹きたい！とリクエストあり。

音を教え、その部分は歌ではなく鍵盤ハーモニカでみんなで吹いた。(ソツレレレレ〜)

・自分だけのリズムで自分のひらめいた音で、自分の順番の時に吹く。

・グループで、やりたい人で、全員で。

### 2. 第4時を終えて感じたこと



この第4時で自由度が上がり、さらに自分の思いを表現できる喜びを感じているようだった。子どもたちからは「満足」の声があがった。第3時までは、音楽に大きな幅はもたせることはしなかったが、その分基礎的な力が定着したように感じる。あくまでもこれからの音楽づくりのきっかけになるような活動として取り組んだが、実際に第4時をおこない、子ども全員に、リズムをつくり音を付けることができる力が身に付いていることがわかった。自由度を持たせた第4時の必要性を強く感じた。